

# 新得町の子どもの「体力・運動能力、運動習慣」

平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査を町内の小学校と中学校で実施しましたので、結果を公表します。

なお、本調査から見える結果は特定部分であり、一側面を表したものであることから、新得町の児童生徒の体力・運動能力、運動習慣の全てが見えるものではありません。



## 《調査の内容》

◆調査期日  
平成30年7月

◆対象学年  
小学5年生、中学2年生

## ◆調査目的

- ①児童生徒の体力・運動能力、運動習慣の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ②児童生徒の体力・運動能力、運動習慣の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する
- ③学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる

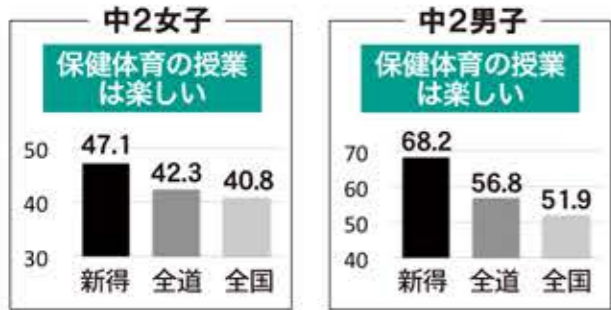
## ◆調査内容

- ①実技に関する調査
- ②質問紙調査（運動習慣、生活習慣等に関すること）

## ◆運動習慣等調査◆

### 【中学校】

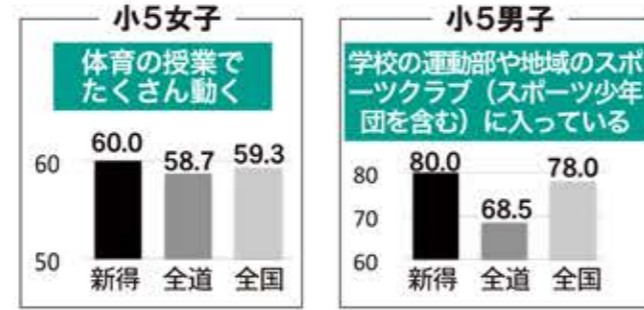
- 《家庭生活》
- ・9割の生徒が、朝食と夕食を毎日食べている。
- 《運動面》
- ・9割の生徒が、体育の授業で十分に体を動かしている。
  - ・9割の生徒が、体育の授業で互いに助け合ったり、役割を果たす活動を行っている。



※グラフは各34項目から特徴的な項目を抜粋しています

### 【小学校】

- 《家庭生活》
- ・9割の児童が、朝食と夕食を毎日食べている。
- 《運動面》
- ・9割の児童が、体育の授業で互いに助け合ったり、役割を果たす活動を行っている。
  - ・9割の児童が、体育の授業で友達同士やチーム内で話し合う活動を行っている。



## ◆体力・運動能力調査◆

### 《体格の比較》

項目	小5(男子)		小5(女子)		中2(男子)		中2(女子)	
	身長	体重	身長	体重	身長	体重	身長	体重
新得町	139.9	35.4	139.3	33.6	164.1	54.5	156.6	45.2
全道	139.5	35.7	140.9	35.3	161.2	50.7	155.3	47.4
全国	138.9	34.2	140.1	34.0	160.0	48.6	154.9	46.6

### 《実技の比較》

▲は全道・全国を上回った ▲は同等程度 ▼は下回った

種目	判定項目	小5(男子)	小5(女子)	中2(男子)	中2(女子)
握力	筋力	▲	▲	▲	▲
上体起こし	筋持久力	▼	▲	▲	▲
長座体前屈	柔軟性	▲	▲	▲	▲
反復横とび	敏捷性	▲	▲	▲	▲
20mシャトルラン	全身持久力	▲	▲	▲	▲
50m走	走力	▲	▲	▲	▲
立ち幅とび	跳躍力	▲	▲	▲	▲
ソフトボール投げ	投力	▲	▲	▲	▲
ハンドボール投げ	投力	▲	▲	▲	▲

### 【小学校】

《体格》  
男女ともに1割程度の肥満が見られました。

《実技》  
男子は6項目、女子は7項目で全道・全国平均を上回りました。

### 【中学校】

《体格》  
男子の2割弱に軽度の肥満、女子にはやせ身の傾向が見られました。

《実技》  
男子は7項目で全道・全国平均を上回りましたが、女子は4項目が下回りました。

### 【学校での取り組み】

- ・各学校ごとに体力・運動能力向上に向けた目標を設定しました。
- ・児童生徒個人においても自分自身の目標を設定する機会を設け、体育の授業に対する意識を高めました。
- ・目標達成に向け、コツやポイントに重点をおいた指導に取り組みました。

### 《成果》

- ・体力・運動能力調査では、小学校の男女、中学校の男子において全道・全国平均値を6項目以上で上回りました。
- ・運動習慣等調査では、一例として「学校の運動部や地域のスポーツクラブに入っている」と答えた男子児童や、「保健体育の授業は楽しい」と答えた生徒の割合が全道・全国平均値を上回り、運動に対する意識の高さが伺えます。

### 『課題』

- ・児童生徒にとっての学習内容の定着度を向上させるための工夫や取り組みが一層必要です。
- ・児童生徒が体育の授業で学んだことを授業以外にも活用することや、授業で学習した内容が将来の役に立つと思えるような授業改善が必要です。

### 【教育委員会として】

- 調査の結果を踏まえ、課題改善に向けた方向性として
- ①体育の授業の最後に振り返りの活動を位置付け、学習の定着度の一層の向上を図ります。
  - ②授業の中で、ICT機器を効果的に活用するなどして、自分の体の動きを客観的に把握・理解することができる学習環境を整え、学習活動を支援します。
- また、次の事項に重点を置きます。

- ①児童生徒の発達段階を踏まえた体系的なカリキュラムやプログラムの工夫とともに、各学年の目標と一人ひとりの具体的な到達目標を設定します。
- ②学校全体で体力向上に向けた休みの時間の活用や学校行事等の取り組みを検討します。
- ③教員の資質向上を図るため、体育実技研修会等への積極的な参加及び外部の専門的指導者(地域人材を含む)を活用します。
- ④学校は家庭と連携し、更に児童生徒の基本的な生活習慣の確立と運動習慣の定着を推進します。

- ⑤地域のスポーツ少年団や社会教育事業等、日常におけるスポーツ活動組織への加入や参加促進を図ります。